

## 成果報告書

### 中高齢者のスポンジボールテニス活動の普及・存続に関するインタビュー調査 富山市と大分市の事例比較

健康マネジメント研究科スポーツマネジメント専修 学籍番号 80851247 原田昇

【背景】1980年代以降、数多くのレクリエーションスポーツが登場し、中高齢者向けに普及活動が行われてきた。しかし、導入された種目の多くは、競技者人口が減少し、活動が縮小する傾向にある。これに対し、スポンジボールテニスは、富山県、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県、島根県、香川県、大分県、石川県など計10協会を中心に活動が維持・拡大され、富山と大分県だけでも会員登録数は2000名(2011年)を超える。

【調査目的】スポンジボールテニス活動を存続させている要因を競技特性面、人的・組織的な側面、環境的側面から分析し、今後の普及や発展に重要な要因を明らかにする。

【調査方法】昭和60年に協会が設立された歴史のある協会の代表である富山市と平成20年に協会が設立された新しい協会の代表である大分市の協会会長にそれぞれインタビュー調査を行う。主な質問項目は、①スポンジボールの競技特性、②協会やクラブ創設の背景、③会員数や年齢層、④施設利用における県や市の公共機関の支援、⑤普及や広報活動、⑥協会や各クラブにおける会員間の人的交流の6項目。

#### 【結果】

##### ① スポンジボールの競技特性

スポンジボールテニスの種目特性は、ボールのスピードが遅いため、自己流でも簡単にプレーができる、技術レベルが異なる人とプレーを行っても楽しめる一方で様々な戦略で戦えるなど競技性も高いこと、ダブルスは「きつい」運動にならない等の理由から競技脱落者がきわめて少ないことなどが明らかになった。

##### ② 協会やクラブ創設の背景

富山市：昭和54年に富山市健康都市宣言が行われ、競技型スポーツから市民一人ひとりのスポーツとしてニュースポーツが推進される中、スポンジボールテニスも校区体育協会にてスポーツ教室が実施され普及活動が行われた。その後、体育協会主催のスポーツ教室からクラブ化への転換が進められ、昭和60年に協会が設立された。大分市：協会が設立されたのは、平成20年。長年、西宮でスポンジボールテニスをされた会長夫人が、別府に平成16年に帰郷され、友人や近隣の人を巻き込む形で普及活動が始まり、3年前に現会長により協会が創設された。

##### ③ 会員数・会費・年齢層

富山市：会員数は、富山市で250名、県全体で1500名。年齢層は、40～60歳代が中心。協会会費500円/月。大分市：会員数は、大分県全体で500名ほど。クラブ数は県下で約20クラブ。男性3割、女性7割。年齢層は、50～70歳代が中心。300円/年、大会参加費

6000 円、練習時の費用は各クラブ任せで 200～300 円/一回程度。

#### ④ 施設利用における公共機関の支援

富山市：生涯スポーツ普及への基盤整備作りに、市の体育課、市体育協会、体育指導委員が大きな役割を果たした。昭和 22 年に小学校区の体育協会が設立され、昭和 45 年には、学校体育施設開放事業が発足、全小学校体育館夜間無料開放が開始された。体育指導員や体育協会からの支援を得て普及が行われたという背景があり、施設利用に関しては、小学校夜間開放利用や市主催スポーツ教室時の使用料 100%減免等、無料で施設が利用できるように制度面からの公的機関の支援があった。大分市：小学校開放が土日に行われているが、協会は開放運営委員会に入ることができず、小学校施設利用の抽選会に参加できない。このため各クラブ単位でウィークデーの体育館や公民館の予約が行われている。大分市の総合型クラブは開放運営委員会のメンバーであり、空き施設の利用が可能である。しかしながら、「大分市に存在する 4 つ総合型スポーツクラブするに対し十分な数の小学校開放が行われていない。」(わいわい夢クラブ理事長、総合型スポーツクラブ)。

#### ⑤ 普及や広報活動等

富山市：種目の開発・普及活動・協会設立に、市体育課、市体育協会、体育指導委員が深くかかわってきた。富山市市民スポーツ祭など市営スポーツ施設を利用した大会が開催される中、協会が設立された昭和 60 年には、市民スポーツ祭交流会種目から校区対抗種目に格上げされた。また公共機関からの支援として、ルールブックの作成等を通して、県全体での周知活動が行われてきた。協会は、各校区クラブの統括、各種大会企画・運営、指導者の育成を行っている。大分市：高齢者の病院通いを少なくしようという大分市の施策の一環として健康体操教室の開催に加え、健康教育課は広報でスポンジボールテニス教室を紹介、また平成 19 年には近隣の別府市教育委員会も総合型スポーツクラブの種目としてのスポンジボールテニスを後援した。全国理事会では、ルールの共通化、毎年開催される全国大会の準備など普及のための議論や活動を定期的に行なっている。

#### ⑥ 協会や各クラブにおける会員間の人的交流。

富山市：自分が所属していないクラブでもプレーが可能のため、近隣クラブ間の人的交流も盛んである。大分市：施設の確保が難しいため、会員の増加に積極的でないクラブもある。協会は、熊本市や鹿児島市との交流で活動領域を広める型で人的交流を進めている。毎年開催される全国大会では、大会前日に協会員交流の場として親睦会が行なわれている。

#### 【まとめと考察】

スポンジボールテニスは、適度な運動強度を持ち、誰でも初めから楽しむことができるため、中高齢初心者でも継続可能なスポーツである。地域内だけでなく全国大会も定期的に行われており、競技への参加環境は整っていると思われる。しかし、施設の確保という点からみると、今後新たにスポンジボールテニスを始めようとする地域では、富山市のような公共機関の支援、たとえば小学校区での夜間開放利用が進まない限り、施設の確保が普及の大きな足かせになる可能性が高いことがインタビュー調査の結果明らかになった。